

新 MEGA 国際シンポジウム：

マルクス『資本論』の歴史的・批判的編集とその現代的意義

日時：2005 年 11 月 26 日（土曜）、13 時～17 時 30 分

会場：中央大学後楽園キャンパス 5 号館 3F

開会

1)宮川 彰（首都大学東京）：開会/外国人出席者（14 名：F.チャイ、R. ジャン（中国）、M-G. チュン（韓国）、R. ヘッカー、M. クレトケ、W-H. クラウト、M. ノイハウス、R. ロート、B. シェフォールト、C-E. フォルグラーフ（独）、M. ムスト（伊）、K. アンダーソン、L. ヴァーシナ、V. フォミチョフ（露））の紹介

2)ドイツ大使館：ご挨拶（調整中）

3)大野 節夫（同志社大学）：京都コロキウム報告

第 1 部 国際協力による MEGA 編集の可能性（司会：宮川彰）

4)マンフレート・ノイハウス（国際マルクス/エンゲルス財団事務局長、ベルリン=ブランデンブルク科学アカデミー(BBAW)、ベルリン）：新 MEGA プロジェクトの学術化、国際化、現状および今後の展望

5)ヴォルフ・ハーゲン・クラウト（BBAW 学術責任者、ベルリン）：ドイツ人研究者と日本人/アジア人研究者との協働拡充と可能性

6)キリル・アンダーソン（RGASPI 所長）：RGASPI と MEGA

7)大谷禎之介（日本 MEGA 編集委員会代表）：日本 MEGA 編集委員会の現代的課題

第 2 部 新 MEGA とマルクス『資本論』の現代的探求（司会：守健二）

A) 新 MEGA 編集者の観点から

8)大村泉（東北大学、日本 MEGA 編集委員会仙台グループ代表）：日本人研究者が編集した MEGA 第 II 部門第 12 巻（『資本論』第 2 部エンゲルス編集原稿(1884-1885 年)」収録）概観

B) 新 MEGA 読者の観点から

9)ベルトラム・シェフォールト（フランクフルト大学）：新 MEGA 第 II 部門第 15 巻（エンゲルス版『資本論』第 3 部収録）の刊行によせて

10)ミハエル・クレトケ（アムステルダム大学）：マルクスエンゲル問題：－エンゲルスは果たしてマルクス『資本論』を台無しにしたのか？

第 3 部 マルクス/エンゲルス文書のデジタル化：『資本論』研究の新局面（司会：鳥居伸好）

11)窪俊一（東北大学）＋赤間道夫（愛媛大学）＋レギーナ・ロート（BBAW 研究員）＋ヴァレリー・フォミチョフ（RGASPI、マルクス/エンゲルス部門責任者）＋レンシアン・ジャン（中共中央編訳局）：マルクス/エンゲルスのデジタル化：『資本論』第 1 部ドイツ語第 2 版、同フランス語版マルクス手沢本欄外書き込みのデジタル化について

12)鳥居伸好（中央大学）：閉会

BBAW:ベルリン=ブランデンブルク科学アカデミー、RGASPI:ロシア国立社会=政治史アルヒーフ

主催

- 1) 日本 MEGA 編集委員会・仙台グループ(科研費基盤研究(A)・「IT 活用による『資本論』第2部成立過程の全容解明と関連刊本・草稿のデータベース化」(課題番号15203009) 研究プロジェクト、代表：大村泉(東北大学)＋科研費基盤研究(B)・『『共産党宣言』を中心とするマルクス主義文献の普及過程の解明とデータベース化」(課題番号：17320019) 研究プロジェクト、代表：窪俊一(東北大学))
- 2) 東北大学大学院経済学研究科『資本論』研究プロジェクト
- 3) 中央大学経済研究所：マルクス経済学研究会・日本資本主義分析研究会
- 4) 日本マルクス・エンゲルス研究者の会
- 5) 経済理論学会関東部会

後援

国際交流基金(The Japan Foundation)



趣旨

本年11月、いよいよ日本人研究者が中心になって編集した新MEGAの巻＝新MEGA第II部門(『資本論』および準備労作)第12巻(『『資本論』第2部エンゲルス編集原稿(1884-1885年)」収録)が刊行される。これは前世紀最初の四半期以来、80年余の歴史を持つ新旧MEGAの歴史で最初の出来事である。これを記念して国際マルクス/エンゲルス財団(本部：アムステルダム社会史国際研究所)事務局長、マンフレート・ノイハウス教授以下14名の海外の研究者を招いて国際シンポジウムを開催する。同財団は1990年以来旧ソ連、旧東独のマルクス＝レーニン主義研究所に代わって新MEGAの編集・刊行に責任を負っている。本シンポジウムでは、新MEGA編集に関する向後の国際協力の展望、新MEGA版『資本論』の意義、マルクス/エンゲルス文書のデジタル化について日・独・露・中・伊・韓の研究者が報告する。

海外の研究者の報告には通訳が付く。入場無料。新MEGAに関心を持つ多数の研究者、市民の来聴を歓迎する。

本シンポジウムは「日本におけるドイツ・2005-2006年」の公式行事である。

問い合わせ先：

大村泉 omura@econn.tohoku.ac.jp

宮川彰 miyakawa@bcomp.metro-u.ac.jp

鳥居伸好 torii@tamacc.chuo-u.ac.jp

前畑憲子 maehata@rikkyo.ne.jp